

宮陵会報

KYU-RYO

No.90

2010・7

発行責任者
社団法人 宮陵会
広報委員会

〒221-0802
横浜市神奈川区六角橋3-27-1
神奈川大学内
TEL 045-481-5661
(内線 2451~3)
FAX 045-413-0791
印刷所 株式会社 江森印刷所

**第60回湘南ひらつか七夕まつり
「平塚市・神奈川大学
交流提携20周年記念事業特別企画」**

7月1日から4日に開催された第60回(平成22年度)湘南ひらつか七夕まつりの特別企画として、応援指導部チアリーディング部が特設メインステージで演技を披露しました。



前列中央 大藏律子平塚市長、前列左 石積勝神奈川大学副学長を囲んで、特別企画に参加したチアリーディング部の皆さん



**第58回 ザよこはまパレード横浜みなと祭
国際仮装行列にて「はまっパレ大賞」受賞**



5月3日、神奈川大学吹奏楽部が山下公園～みなとみらい地区で開催された「第58回 ザよこはまパレード横浜みなと祭国際仮装行列」において、グランプリである「はまっパレ大賞」を初受賞しました。

**Contents
No.90**

平成22年度第1回代議員会・通常総会開催	2
平成22年度事業計画・予算	6
本部だより	6
大学ニュース	7
支部だより	8

平成二十二年 度

第一回代議員会・通常総会を開催
山形・富山・京滋支部からも参加

平成22年5月23日(日)に新年度の第1回代議員会及び通常総会が開催された。会議には山形・富山・京滋支部からも出席があった。

代議員会の議案は、第1号議案・平成21年度収支決算報告に関する件、第2号議案・平成22年度補正予算に関する件が上程された。

通常総会の議案は、第1号議案・平成21年度収支決算報告に関する件、第2号議案・平成22年度事業計画及び収支予算に関する件が上程された。審議の結果、すべて議案ごおり可決・承認された。

会議に先立ち、セブンサミッツ登頂達成を記念して「七つの大陸の最高峰を訪ねて」と題し、神奈川大学体育会山岳部監督・遠征隊長 落合正治氏(昭和46年経済学部卒)の講演があり、数々の苦労や感動の秘話があり、来場者を魅了した。

「質実剛健 積極進取」は今こそ

宮陵会会長 狩野 七郎



新年度(平成22年度)がスタートしました。代議員会・通常総会では提出議案がすべて原案どおり可決いたしました。現在ご承認いただきました計画を一步一步進めているところです。

神奈川大学の特徴のひとつに卒業生が全国津々浦々に必ずいらつしやる、しかも熱い想い出をもっておられることです。これは他大にはあまり見られないことでもあります。そして皆さんそれぞれ母校に寄せる夢と期待が大きいことはまことに嬉しい限りです。お正月の箱根駅伝の応援がその象徴でもあります。大学の箱根駅伝への取り組みに、より力

カップ日本のチームの総合力と「日本人にとって良かった、日本の誇りです」(ブラジルから帰化した関莉王選手の言葉)
三つ目は楽天が社内は英語統一で、日本語は原則なしと、グローバルもここまで来たかと驚きました。
私は神奈川大学の建学の精神「質実剛健 積極進取」が今日ほど求められていることはいらないと思います。

宮陵会との更なる連携を

神奈川大学理事長 伊藤 文保



本日は、この総会が盛況裏に開催されましたこと、心からお喜びを申し上げます。
そして、ただいまは、後輩学生のために多大な御支援を頂戴いたしまして、現役の学生らも非常に励みになることだろうと、改めて感謝を申し上げます。
また、日頃、課外活動等いろいろな分野に御支援、御協力をいただき改めて御礼を申し上げます。

私も、ちょうど本日で、理事長就任1年8カ月になり、ようやく大学の顔が少し見えてきたかと感じております。そうした中で、やはり卒業生の方の愛校心であるとか、団結力、こういってものが、大学のいろいろな運営面に大きな力を持つもの、そして、大学の力というものをあらわすものだと、このことを改め

会議での質問と回答

質問 ホームカミングデーで同窓会やクラス会に大学校舎を用意してくれるとのことだが、利用されるグループは、実際にどのくらいあるか?
回答 昨年の実績では、18団体の利用があった。会員の皆様から事務局へ連絡を頂ければ対応する。

質問 奨学金の未回収対策としてどのように進めているのか?
回答 西湘法律事務所のご協力を得てから回収率の向上が図られ、滞納金額も減少してきている。引き続き督促を進め、滞納者を訪問し、回収に努めていきたい。

質問 宮陵会は新たな法人格の検討を進めているがどのようなものか?
回答 現在、理事会の中で、特別委員会を設置し、検討を重ねている。平成25年までに一般社団法人としての位置づけに向けて検討している。

て再認識したところでございます。今後とも、そうした意味で、宮陵会の皆様とは絶大な協力関係を結んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

恒例によりまして、学長と、私と、役割分担で手短かに5点ほど御報告申し上げます。

まず、皆様のお手元に、神奈川大学将来構想の中期実行計画というものをお配りしてございます。まだ学校法人の評議員会でも配っていないものでございますけれども、ようようのことに将来構想も実行計画レベルまでこぎつけることができました。これをいかに100周年に向けて実行していくかが重要なこととございます。私どもとしては、法人、教学、力を合わせて実行を期してまいりたいと思っておりますので、よろしく御協力のほどお



狩野宮陵会会長挨拶

願ひ申し上げます。
それから、この4月の事務局組織改編に当たりまして、卒業生との絆という意味で宮陵会との関係は大切であり、後援会の組織も重要であることから総務部内に校友課という課を設置いたしました。校友課長を新たに任命し、今までと違った双方方向での宮陵会との関係というものを築いていければと、また、お手伝いもできればという思いでございます。苦言、提言、何でも結構でございますから、お寄せいただければというふうに考えております。

それから、皆様懐かしい思いをされております3・4号館を取り壊して、2013年の春新館を竣工という予定は、今のところ、順調にいております。大体規模としては、現在の3・4号館の4倍近い新しい建物ができることとなりますが、少しグレードの高い、象徴的な講義棟を中心としたものをつくってきたいと思っております。

任した時、志願者3万3千人という目標を立て、皆様方にもご協力をお願いして参りました。3年前に学長に就任した時、志願者3万3千人という目標を立て、皆様方にもご協力をお願いして参りました。



神奈川大学学長 中島三千男

「中期実行計画」の実現に全力

最後に、皆様の御健勝を祈念いたしました。ごあいさつとさせていただきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

私からは以上でございますが、いずれにいたしましても、やはり大学と卒業生、宮陵会とが両々相まった平均的な両輪で、これから大学運営を切り回していきたいと、こんなふうにも考えております。

最後でございますが、宮陵会の本部の皆様とは定期的に意見交換会等を行っております。大学の状況を御報告する、御提言をいただく、おしかりをいただくなどのいろいろな機会を持っております。私の一存で決めることではございませんが、今後は、もう少し中核部に入ったところで、いろいろ宮陵会の御意見も頂戴し、経営の一翼を担っていただきたいと、こんなふうにも思っております。

たが、残念ながら、就任して2年連続、前学長時代を含めると3年連続、計4、000名余りの志願者を減らし、再び3万人を割ってしまいました。しかし、学長任期の3年目、昨年度は、皆様方の御協力のおかげをもちまして4年ぶりに志願者を、若干(150名)でございますが、増やすことができました(29、448名)。皆様方に厚く御礼申し上げます。

また、いま大学院の強化が各方面で叫ばれておりますが、おかげさまで、確かに不況という背景はありますが、後述述べます大学院における奨学金の抜本的充実もあって、志願者(48名)、入学者(250名)とも過去最高の数を記録しました。

次に教学改革の現状について報告させていただきます。まず全体的な状況から。今、日本の大学は大きな構造的な転換を迫られております。これには二つの背景がございます。一つは、大学のユニバーサル段階への到達、4年制大学への進学率が50%を超えたということ。もう一つは、グローバルゼーションに伴う世界の諸大学との通用性の確保が迫られているということです。

こうした状況の中にあつて、本学は近年、二つの方向性をもった改革を進めています。一つは例えば2006年のFYS、キャリア形成科目といった、新しい授業科目の設置です。これは入学してくる学生の多様性に対応です。もう一つは、2008年の大学院科目の先取り履修制度、海外インター

ンシップ制度、今年度から導入しました副専攻制度等に見られるように、意欲ある学生をさらに伸ばしていくための様々なシステムの創設です。この二つの方向性をうまく組み合わせることで進んでいきたいと思っております。

教学の個別の問題としては、まず、昨今非常に厳しい状況にある就職の問題です。本学の就職支援体制は結果を含めて、健闘している方ですが、これを一層強化するために、この4月から、幾つかの手を打ちました。一つは、学生の就職支援を担当する副学長(石積経営学部教授)を置いて、とくに教員の側からの就職支援をより強化して参ります。もう一つは、キャリア教育を充実させるために、その分野において多大なご功績のある桐村晋次先生を特別招聘教授として招聘して、4月から活躍してもらっております。

次に、奨学金の状況です。先ほど、「米田吉盛教育奨学金」に対しまして、宮陵会から多大な御寄付をいただきました。まことにありがとうございます。おかげをもちまして、この制度には高い関心が寄せられています。新入生奨学金には343名、地方出身者奨学金には188名からの申し込みがありました。また、

たが、残念ながら、就任して2年連続、前学長時代を含めると3年連続、計4、000名余りの志願者を減らし、再び3万人を割ってしまいました。しかし、学長任期の3年目、昨年度は、皆様方の御協力のおかげをもちまして4年ぶりに志願者を、若干(150名)でございますが、増やすことができました(29、448名)。皆様方に厚く御礼申し上げます。

また、いま大学院の強化が各方面で叫ばれておりますが、おかげさまで、確かに不況という背景はありますが、後述述べます大学院における奨学金の抜本的充実もあって、志願者(48名)、入学者(250名)とも過去最高の数を記録しました。

次に教学改革の現状について報告させていただきます。まず全体的な状況から。今、日本の大学は大きな構造的な転換を迫られております。これには二つの背景がございます。一つは、大学のユニバーサル段階への到達、4年制大学への進学率が50%を超えたということ。もう一つは、グローバルゼーションに伴う世界の諸大学との通用性の確保が迫られているということです。

こうした状況の中にあつて、本学は近年、二つの方向性をもった改革を進めています。一つは例えば2006年のFYS、キャリア形成科目といった、新しい授業科目の設置です。これは入学してくる学生の多様性に対応です。もう一つは、2008年の大学院科目の先取り履修制度、海外インター



伊藤理事長に寄付目録を贈呈

ンシップ制度、今年度から導入しました副専攻制度等に見られるように、意欲ある学生をさらに伸ばしていくための様々なシステムの創設です。この二つの方向性をうまく組み合わせることで進んでいきたいと思っております。

教学の個別の問題としては、まず、昨今非常に厳しい状況にある就職の問題です。本学の就職支援体制は結果を含めて、健闘している方ですが、これを一層強化するために、この4月から、幾つかの手を打ちました。一つは、学生の就職支援を担当する副学長(石積経営学部教授)を置いて、とくに教員の側からの就職支援をより強化して参ります。もう一つは、キャリア教育を充実させるために、その分野において多大なご功績のある桐村晋次先生を特別招聘教授として招聘して、4月から活躍してもらっております。

次に、奨学金の状況です。先ほど、「米田吉盛教育奨学金」に対しまして、宮陵会から多大な御寄付をいただきました。まことにありがとうございます。おかげをもちまして、この制度には高い関心が寄せられています。新入生奨学金には343名、地方出身者奨学金には188名からの申し込みがありました。また、

たが、残念ながら、就任して2年連続、前学長時代を含めると3年連続、計4、000名余りの志願者を減らし、再び3万人を割ってしまいました。しかし、学長任期の3年目、昨年度は、皆様方の御協力のおかげをもちまして4年ぶりに志願者を、若干(150名)でございますが、増やすことができました(29、448名)。皆様方に厚く御礼申し上げます。

また、いま大学院の強化が各方面で叫ばれておりますが、おかげさまで、確かに不況という背景はありますが、後述述べます大学院における奨学金の抜本的充実もあって、志願者(48名)、入学者(250名)とも過去最高の数を記録しました。

次に教学改革の現状について報告させていただきます。まず全体的な状況から。今、日本の大学は大きな構造的な転換を迫られております。これには二つの背景がございます。一つは、大学のユニバーサル段階への到達、4年制大学への進学率が50%を超えたということ。もう一つは、グローバルゼーションに伴う世界の諸大学との通用性の確保が迫られているということです。

こうした状況の中にあつて、本学は近年、二つの方向性をもった改革を進めています。一つは例えば2006年のFYS、キャリア形成科目といった、新しい授業科目の設置です。これは入学してくる学生の多様性に対応です。もう一つは、2008年の大学院科目の先取り履修制度、海外インター

ンシップ制度、今年度から導入しました副専攻制度等に見られるように、意欲ある学生をさらに伸ばしていくための様々なシステムの創設です。この二つの方向性をうまく組み合わせることで進んでいきたいと思っております。

学部から大学院に上がる神奈川大学の出身者への奨学金にも126名が申し込み、また今回の奨学金改革の目玉でもあり、本学出身の教員比率を高めるための、大学院給費生には18名の申し込みがありました。

こうした、本学の様々な分野における、改革の取り組みが評価され、昨年度、大学基準協会にお願いした外部評価において、法科大学院も含めて「大学基準協会の基準に適合している」という評価をいただきました。ただ、依然と法科大学院単独の評価では不適合という判定は残っているので、今年度、追評価を申請している状況でございます。

最後になりましたが、先ほど会長からもお話のありました地方出身者増の対策については、神奈川大学の卒業生の子女、在学生の兄弟姉妹、この方たちに対する特別な入学試験制度を公募制推薦制度(自己推薦)の形で、行いたいと考えております。

いずれにしましても、神奈川大学が20年後日本の大学にあってより確固とした地位を占めることが出来るよう、新たな任期の3年間、そのために全力をあげる、とくに『将来構想中期実行計画』の実現に全力をあげる覚悟でございますので、今後とも皆さま方の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

思ふこと つれづれなるままに...

宮 陵 会 副 会 長 新 井 三 夫



「歳月不待人」は、まさしくその通りである。時の流れはまことに早く宮陵会の副会長を拝命して、すでに三期目も中頃になった。

過ぎたこの期間を省みて、何がどのように進展したか、或いは改革らしきものをしてきたか、自問しなければならぬ時期である。永年、企業人として「いかなる時も打つ手は無限」を強調しながら難局面を乗り越えて

きたことを、いま懐かしく思い、同時にその概で宮陵会の運営に携わっているか、振り返ってみる機会でもある。

顧みて、恥じることはない足跡を残したろうか。極めて、残念ではあるが、「その程度の」ものしか見当たらない。

少子高齢化は更に進むなか、大学(学校法人)は、いま生き残り賭けて戦略を具現化しているが、その状況下において宮陵会の役割は何か、また何を如何ように連携していくべきか、現状を再認識して次なる方策を考察しなければならぬ。

同様に、宮陵会にあっては地域支部の共通課題は会員の高齢化による衰退である。若い会員の新規加入が儘ならぬことである。もとを質せば地方の受験生即ち卒業生の減少である。

打つ手は一つ。受験生の増大であるが、簡単な問題ではない。少子化と不況と「安近短」のご時世にあって、一朝一夕に解決出来るほど生易しいものではない。しかし自然淘汰の危機を睿智と果敢な行動力で乗り切るべきと考える。

一方、近年は神奈川県と東京、静岡、ほか関東圏で志願者(合格者)が七割を超えている現状。自ずと卒業生の数は正比例する。このマーケットの大きい地域、即ち卒業生の多い所に新たな支部の設立が急務とされる。

このところ、三浦半島支部を皮切りに、横浜北、戸塚・栄、磯子、港南、瀬谷・泉、茅ヶ崎・寒川、西・中の各支部の設立がその証であり、更にマーケットシェアに見合う新規設立を実現させなければならぬ。

そして極めて近い将来に於いて、県内の各地域支部と職域・同期・同好の支部の合同による神奈川大会(仮称)を大々的に開催したいものである。同時に、地域支部の発展維持のため各支部長と連絡機関を強化し、情報公開(交換)の場を広げ、活性化の一助にした

い。いみじくも、支部組織特別委員会委員長であり、最たる役割を、事務局と各委員のご

助力ご協力を得て、この課題を積極的且つ前向きに、より具体的な方向性を見出し、いきなり。宮陵会の初の20万人突破の行く末に、永久(とわ)の発展は、卒業生の母校を思う熱き心と固い団結が不可欠であろう。そのことを念頭に置き、微力ながら健全運営にすすんで参加することを約束する所以である。

「もうはまだです、まだはもうです」古来より伝わる格言であるが、ときに自身の人生訓の一つでもあり、今またそのことを冷静に熟慮して、或る事を判断する時でもある。悔いを残さないために、与えられた任務を果たすべきと心得を新たにしている。

宮 陵 会 副 会 長 秋 田 琢 次



歳を重ねて72年を迎えた。社団法人宮陵会は大学の82周年同様、宮陵会の72年も幾多の激動、時代変革と共にそのときその時を乗り越えて今日に至った。

宮陵会の会員は約19万名十準会員1万9千名に増大したことはまことに喜ばしい事です。他方で、会員の「地域と年齢」の構成比で見ると少子高齢化が現実となり避けて通れないこの状況を打開する事は容易ではない難問であります。このことが地方支部の存命にかかっていると言っても決して過言ではありません。

昨今、地方からの入学生、すなわち卒業生比率が甚だしく減少、その傾向は年を追うごとに増大しています。あるブロック会はその存続すら危惧されています。

大学が苦悩するところの少子化と地方の受験者に伴う諸問題は当然宮陵会も同様です。当面、宮陵会は現存する地域84支部の活性、全国13ブロック会の組織の整備を急ぎ、地方の各界で活躍(人的財産)されている「著名人や専門家」の「力」を借り大学と地元が忌

憚らない意見交換や実力談議ができる環境整備を主題に2期目に入った特別委員会がその役割を果たさなければならぬ。正直、前期(20年11月)の広島支部立ち上げ、中国ブロック会(20年4月)の設立があっても、まだ途中に居る感覚が強く次の東海ブロック会設立に向けどう対処するか、いま一度考え準備最中の2期年となりました。

「つなげる・つながる」神奈川大学高大連携協議会(会長 中島三千男学長)の教育組織が果す役割同様、必要とされる組織、系統的な取り組み、連携のあり方について情報交換、先行きが見えない時代だからこそ、自分の生き方をしっかり考え、そのためには何を学びたいのか、学ばなければいけないのか、それにはどこの大学なのか、受験生は進路選択をする。その大学が神奈川大学であって欲しい。

そうしたいと意気込む。神大は、かつて、全国型大学として特徴があった(給費生制度や授業料が安い等)最近では特徴そのものが薄れたとよく聞く。大学は伝統を受け継ぎ、いい学生を多く集め、いい先生の下で、ゼミや研究・実験に一生懸命だった。

嘗て、全国各地から集まった同窓の猛者達は想い出す。母校は健在か、どのように発展したか、志高く夢を語り将来を展望した学び舎、よこはま、同期のあの彼は今どうしている、あの先輩は如何にと。母校を想う気持ち即ち価値観がどのように変われども、心に宿る強い母校愛・愛校心は変わらない。母校が全国型の大学を志向するのならば宮陵会は重要な「核」として地域支部とブロック会組織を固めモチベーションを高め寄与したいと思っ

ている。7月6日発表第3回「大学の實力・教育力向上の取り組み」調査(読売新聞)全国4年制大学75校を対象(589校 約80%が回答)に、今年、就職支援の取り組みを中心に卒業生数や就職者数など約50項目を調査発表、神奈川県内の私立大学23校の総合自己評価「A」は8校(神大、北里大、産能大、昭和音大、

女子美大、専修大、田園調布学大、東京工芸大)①神大の学生数1万8千438(全国18番目)／定員数1万6千920、②退学率(4年間)11.9%③(1年間)3.1%、④卒業率(修業年限4年)73.8%、⑤シラバス、確認と修正・授業計画書、⑥学習支援PBL課題解決授業、⑦読書量、×だが、全体評価は概ね高得点評価だった。全入時代の卒業出口：就職難(今春の就職率は、91.8%(神大79%)。)

就職浪人：約11万人で「新卒未就職約3万1千人・留年者7万9千人」就職氷河期の再来とされ厳しい状況になっている。

大学には、基礎体力を養う滋養、栄養剤と即効性の強いカンフル剤との双方が今求められている。卒業して就職時、つまり出口の対策だけでなく、入り口入学時での基礎学力が問題でその向上対策が急がれ新入生対象の「補習教育」は全体の61%の大学が実施している。なお、就職支援対策で保護者を交えた三者面談や保護者向けの就活セミナーを303校が実施(未実施校257校)、この事実は保護者の子弟の大学選びに大きなヒントにもなっている。従来型の就職支援だけでなく大学側ではマナーの取得など社会人としての基礎づくり等にも苦闘が窺える。

地方の支部活性は大学の発展と駅伝に代表されるスポーツ活動での活躍です。大学はよく陸上部駅伝ブロックの新しい強化支援・指導体制を具体的に示し講じた。

大学が元気になるれば地方も元気になる。しかしながら地方支部を統合したブロック会が必ずしも万全で機能しているとは言えない。いま、法人、大学、宮陵会19万余名の大きな「財産」を活かすスクラムを組み、冬の時代と言われる大学間競争に必ず勝ちたい。

大学との連携を柱とする全国支部を網羅するパワーで、ブロック会組織を確立する事こそが喫緊に果す特別委員会の責務だと思っております。

組織、織物でいう緯糸と経糸の関係でいかにように織り込むかが鍵である。同窓会では各

支部を縦の組織、本部を横の組織としてバランスよくかみ合い、支部と本部の「責任と権限」を明確に活動出来る体制をつくる。同窓生は等しく神奈川大学の卒業生であることを誇りに思う。いま、新しい視点にたち、地方受験生確保に各地で活躍の卒業生の存在に期待し、ブロック会組織が大学行事の地方試験や父母懇談会に協力出来る組織であってほしい。最近では、早い効果を求め気ばかり先行し焦っている。意気込みは一期一会の心境。軌跡を大切に、継承すべきものは今に活かし後生に伝えるのも大切だと思っている。無形のものには風化しないうちに形に定着させ、継承すべき事、変えるべき事、変えてはならない事を弁えて、次なる目標にチャレンジ、新たな神奈川大学の知名度奪回のために鋭意努力する所存です。

「これからの宮陵会

宮陵会副会長 武笠 健次



一昨年12月、自動的に特例民法法人となった宮陵会は、5年以内(平成25年度まで)に、新法人制度である「公益社団法人」とする

か「一般社団法人」とするかの、移行認定申請を行わなければならない。さもなければ、残余財産を類似の目的を有する公益法人に寄附して、解散しなければならない。

今から60余年前、昭和24年学制改革により、大学の前身である横浜専門学校は、新制神奈川大学へ昇格した。戦後の母校の復興から、新制大学開設準備へと支援した卒業生、同窓会は、その組織の強化、充実に向け、新しい活動を進めることになり、同窓会の恒久的発展を目指して、同年社団法人宮陵会を申請し、認可を受けた。これが宮陵会の原点である。

その後、神奈川大学は急速に成長し、総合大学へと発展していった。宮陵会は、必ずしもそれに追いつけず停滞と再建を繰り返した。特に、昭和43年の大学紛争は宮陵会活動にも大きな影響を与え、宮陵会は休眠状態となった。その後、有志による同窓会が誕生し、大学の正常化・発展に相俟って、全卒業生を会員とする神奈川大学校友会へと発展していった。

昭和60年、宮陵会は監督官庁である文部省から、組織の存廃についての強い行政指導を受けた。その為、宮陵会と校友会は一体のものであり、両組織を合併させて統合し、平成元年、定款変更の認可を受けて、新たな「社団法人宮陵会」が発足した。そして今日に至っている。

昭和24年の社団法人宮陵会の会員数は約1万人である。平成元年の変更認可を受けた時は会員数10万人を超えている。今度の平成25年の新法人制度による宮陵会の会員数は20万人を超える。これはその時点、時点での象徴的な数を現しているといえよう。

母校神奈川大学は、創立一〇〇周年に向け、学校法人神奈川大学将来構想を策定し、その実現のため、本年度(二〇二〇年度)から、中期実行計画を中期目標と共に発表した。これは、これから6年間に実施する具体的な項目を取りまとめたものである。そして、この中の基盤整備部門の最後に、卒業生との連携強化がうたわれている。我々宮陵会もこれにこたえなければならない。母校の将来構想について、宮陵会は何ができる、どの様な支援ができるのか。また、卒業生数が20万人を超える現在、これからの宮陵会のあり方、将来についても検討せざるを得ない時機にきていると思われる。その為には、その根幹となる新法人制度の「公益」か「一般」かを早急に決定し、基盤を固めねばならない。

そして、母校神奈川大学の進展と維持後援をはかることを目的とする本会が、どの様に卒業生を結集し、その叡智を集めて貢献できるのか、また、具体的な援助ができるのかを幅広く検討していかなければならないと考える。会員各位のご意見を切に望むものである。

平成22年度通常総会で表彰を受けた方々

功勞表彰(表彰規程第2条第2号該当)

◆支部関係

- 瀧脇 馨 氏 昭和17年9月電気工学科卒業
元旭川支部支部長
- 中村 哲三 氏 昭和20年9月工業経営科卒業
元和歌山支部支部長

感謝表彰(表彰規程第2条第3号該当)

◆本部関係

- 正野 幸延 氏 昭和38年工学部応用化学科卒業
元理事
- 村田 龍也 氏 昭和39年法経学部経済学科卒業
元理事
- 川島佳代子 氏 昭和40年工学部応用化学科卒業
元婦人部委員長
- 木村 仁 氏 昭和48年経済学部貿易学科卒業
元理事・体育振興委員長
- 打田 一夫 氏 昭和48年工学部電気工学科卒業
元理事・組織委員長・準会員委員長

◆支部関係

- 田地野實一 氏 昭和34年工学部電気工学科卒業
元宮城支部幹事

特別表彰(表彰規程第2条第4号該当)

◆本部関係

- 坂下 泰子 氏 平成22年人間科学部人間科学科卒業
第65回国民体育大会冬季大会成年女子
500m・1000m優勝、第33回全日本選抜
ショートトラックスピードスケート
選手権大会1500m・1000m・500m・
総合優勝等
- 山 岳 部 世界七大陸最高峰登頂計画
「セブンサミット」の達成
- 女子サッカー部 第23回関東大学女子サッカーリーグ戦
優勝、第18回全日本大学女子サッカー
選手権大会準優勝等

平成二十二年度 事業計画・予算

一、神奈川大学の進展と維持に必要な援助

- (1) 大学公開講座の協賛(200万円)
(2) ホームカミングデーの協賛(300万円)
(3) 神大スポーツ・文化振興会公賛助金募集
(4) 奨学金の給付及び貸与(2,300万円)
(5) 特別給付奨学金(課外活動支援特別給付金)

- (6) 卒業祝賀行事の共催(300万円)
(7) 新入生へ記念品の贈呈(81万円)
(8) 卒業生向け特設コンテンツ制作・運営への協賛(200万円)
(9) 学校法人神奈川大学「米田吉盛教育奨学金」募金への寄付(1,000万円)
二、会員相互の連携強化、その他
本会の目的達成に付随する事項

- (1) 法人格の検討
(2) 財政基盤の確立
① 会費納入促進
② 奨学金寄付金の募集
(3) 組織の拡充(ブロック会、支部との連携並びにブロック会、支部の設立及び再建支援)(2,100万円)
① 支部連携祝金、旅費、通信費
② 支部助成金
③ ブロック会議費
④ 支部設立再建支援
(4) 会誌・会報の発行と送付(3,390万円)
(5) 「神奈川大学校友VISAカード」の入会促進及び提携店拡大
(6) その他の目的達成に必要な事業

平成21年度貸借対照表総括表

平成22年3月31日現在

(単位:円)

(単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 一般会計, 奨学金運用特別会計, 合計. Rows include 資産の部 (流動資産合計, 基本財産合計, 特定資産合計, 固定資産合計, 資産合計) and 負債の部 (流動負債合計, 負債合計).

Table with 4 columns: 科目, 一般会計, 奨学金運用特別会計, 合計. Rows include 負債の部 (流動負債合計, 負債合計) and 正味財産の部 (指定正味財産合計, 正味財産合計, 負債及び正味財産合計).

正味財産増減計算書総括表

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 一般会計, 奨学金運用特別会計, 合計. Rows include 一般正味財産増減の部 (経常増減の部, 経常外増減の部), 指定正味財産増減の部, and 正味財産期末残高.

平成22年度収支補正予算書総括表

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

(単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 一般会計, 奨学金運用特別会計, 合計. Rows include 事業活動収支の部 (事業活動収入, 事業活動支出), 投資活動収支の部, 予備費支出, and 貸付金充当.

※要旨のみ掲載しております。詳細は宮陵会のホームページをご覧ください。

本部だより

新支部紹介

西・中区支部 支部長 29 経 君島 清悟
神奈川大学硬式野球部OB会支部 支部長 35 経 大蔵 博

新支部長紹介

苦小牧支部 33 電 土屋 孝人
群馬支部 45 経 久保田重夫
神奈川大学学内校友会支部 平6 応化・平8 工博前・平11 工博後
神奈川大学ラグビー部OB会支部 赤井 昭二
神奈川大学学士山岳会支部 北川 晃司
群馬東毛支部 43 工 経 伊藤 正幸
46 経 落合 正治

スポーツ課外活動支援 特別奨学生採用者

平成22年度

平成22年度スポーツ課外活動支援特別奨学生が決定し、平成22年7月20日に授与式が行われました。

- 硬式野球部 法学部法律学科 小林 知弘
人間科学部人間科学科 小荒田大樹
■陸上競技部 人間科学部人間科学科 上倉 拓也

全国高校生俳句大賞 (第12回)

こんな素晴らしいことが (授賞式に参加して)

全国189校10,015通の俳句がよせられ2010年3月14(日)シンポジウム・授賞式が横浜キャンパスで開催された。優秀校は岩手県立水沢高校を筆頭に全国に及び。ういういしい学生服姿が壇上に居並び喜びもひかえめだ。選者は高名な金子兜太、宇多喜代子、大串 章、黛 まどかの各先生に本学名誉教授の復本一郎先生である。みなその道の大家であるのと同時に講評の中での話題の豊富さとその暖かさに感激した。

地味かも知れないが全国規模でこの種の機会を広く提供する神奈川大学に誇りを感じた次第である。なおこの入賞作を取めた句集「17音の青春」(NHK出版)を是非ご一読いただければと思います。

なお、この俳句大賞の前日に第8回神奈川大学全国高校生 理科・科学論文大賞の授賞式も行われ全国から注目を集めています。(広報:宇久田記)



「どら焼き日本」 鷺見浩生さんを たずねて



米子市はもとより鳥取県で最も元気のよい(結果として製造世界一)丸京製菓株式会社(昭和58年工業経営学科卒)にお話をお聞きしました。アメリカ、中国にも販路を広げ大変エネルギーシユな社長さんでもあります。

Q 学生時代の思い出は?

とにかく学生運動にビックリしました。あとは四年間続けた手品(ジャグラーリーグラブ)で、お客様に喜んで頂くことを覚えたことです。

Q ドラ焼きに情熱を燃やすきっかけは?

あんこ屋として創業52年。いかに多くのお客様に食べて頂くかを考えたら「どら焼き」だったんです。

Q 会社の理念は?

「人のお役に立つ」人のお役に立つことを人生最大の喜びと考え、人のお役に立つ人生を送っていく。

Q 起業を目指す若者へ

「欲を出せ!」最初は私利私欲で良いではないですか。継続していけば、周りの役に立ちたい、企業の役に立ちたいと思うようになります。

「あなたもよくなれ、わたしもよくなれ、みんなよくなれ」の精神です。



Q 宮陵会の皆さんおよび神大生へ一言
神大バンザイ!! 先輩!いつまでもお元気で。後輩!なんでも良い、一所懸命やっただけに無駄はない。学生諸君!つねに感謝の気持ちを忘れずに。

神奈川大学日本常民文化研究所

第14回常民文化研究講座

遠野から日本・

アジア・世界へ

一九一〇年発刊の『遠野物語』は、「日本」の発見でもあった。その序文にある「思ふに遠野郷には此類の物語猶数百件あるならん。(中略)願はわくは之を語りて平地人を戦慄せしめよ」という言葉に強烈に示されているように、遠野というローカルな民俗文化を通して、日本というナショナルな民俗文化を見通すという柳田の壮大な思いがそこには含まれていた。さらに、その日本民俗文化への洞察は、欧米の近代科学や学問を把握して、そこから日本を自省するというグローバルな視野からうまれた思想でもあった。

『遠野物語』から一〇〇年が過ぎ、現代社会はだれでもが世界とつながるグローバルな時代へと進展している。遠野という一地域から、日本、アジアそして世界の文化へと民俗文化の個性と多様性を今日的視点で考える。

◆第一日目 講演会

日時 二〇一〇年一月六日(土)

一三時三〇分〜一七時〇〇分

会場 「あえりあ遠野」二階

交流ホール「もみじ」

〒〇二八〇五二四

岩手県遠野市新町一〇〇

TEL 〇一九八六〇一七〇三

【基調講演】

世界民俗学構想と遠野物語

福田アジオ

【報告】

● 民家?—柳田の民家・中国の民居— 津田 良樹

● 遊離する魂と招魂—『遠野物語』オクマ話からヤオ族の治病儀礼へ— 廣田 律子

● 北の河童・南の河童、そして世界へ 小馬 徹

◆第二日目 エクスカーション

日本常民文化研究所と学ぶ「遠野」

日時 二〇一〇年一月七日(日)

九時〇〇分〜一四時三〇分

【内容】遠野を研究所員と学びながら散策をします。(バス利用予定)

遠野市立博物館↓カッパ淵↓伝承園↓道の駅「遠野風の丘」↓遠野駅

※なお、演題・エクスカーションの内容は変わる場合があります。

【問い合わせ先】

神奈川大学日本常民文化研究所

〒二二一八六八六

横浜市神奈川区六角橋三二七—一

FAX 〇四五—四一三—四一五一

電話 〇四五—四八一—五六六一

内線(四三五八)

ホームカミングデーのご案内

日時 平成22年10月17日(日)12時より

場所 神奈川大学 横浜キャンパス体育館

※参加費は無料です。実施事務局までご連絡ください。

第一部 式典 12:00〜12:30

第二部 懇親会 12:30〜14:00

※当日クラス会等を予定される場合には教室を利用できます。代表者の方は、名称・人数をあらかじめホームカミングデー実施事務局までご連絡ください。

◆神奈川大学ホームカミングデー

実施事務局

TEL 045(481)5661(代)

FAX 045(491)7915

『盲目の方に役立つものを作ってあげたい』 菅野米蔵氏、視覚補助装置『オーデコ』を開発

皆さんはご存じだろうか？盲人という存在を：盲人とは視覚障害者の事で、大きく2つに分けられる。①もともと視覚に問題がなかったが網膜剥離や脳の機能障害などで失明に至った方。②生まれながらに全盲の方。①は見えた時期がある為、人や物が近づいてくる感覚を経験し、光を感じる事ができる。しかし②は生まれながら真っ暗闇で生活をしているため視覚で得る情報・感覚を全く有していない。人は物事のほとんどを視覚で判断する。例えば横断歩道で得る情報は信号・固定物・車・人などである。その中で移動して近づいてくる車はどう判断するのだろうか？その時危険を感じたら私達は避ける。しかし視覚のない人はどう状況判断するのだろうか？普通なら見逃すこの状況に気づき盲人用視覚補助装置『オーデコ』を開発したのが菅野米蔵である。

『オーデコ』とは

Augo。メガネに取り付けたカメラの画像を額に巻いた細かな電極で物体の位置や動きを認識させる装置である。イメージとしては低周波治療器を細く物体の移動に合わせて額に感じさせ、脳でその感覚を映像化する技術。



一九四八年一月 呉服屋の次男として生まれた米蔵は当時出入りしていた問屋から商社の存在を知り海外での仕事に憧れ横浜にある大学の貿易科に進んだ、卒業後商社に就職するもニクソンショックの煽りを受け配属された輸出部での仕事は打切られた。しかし海外への夢は棄てられず、中途採用で日本IBMにSEとして転職した。時期は流れ一九九八年四月通勤中の米蔵にある転機が訪れる。

【菅野米蔵氏プロフィール】

1948年福島県伊達郡出身
実家の呉服屋に出入りの問屋から商社の存在を知り海外取引に憧れ神奈川大学貿易学科に入学、卒業後商社に入社するも世界の経済情勢に吞まれ日本IBM(システムエンジニア)に転職、1998年4月通勤中たまたまバス停で苦勞する盲人学生の姿に『この子達のために』と思い、盲人用補助装置『オーデコ』の研究を始める。

『ガンバレ！神大！』 全日本大学駅伝関東連盟 選考会開催される

2010年6月26日、国立競技場にて1万mを各大学2名ずつ、4組走り合計タイムで競う選考レース。上位5校が、全日本大学駅伝へ参加する事ができる。

当日は、中島学長、正野常務理事、宮陵会は、南区支部、千葉支部を中心に多数応援へ駆けつけて頂いた。神大関係者の応援は、熱心でマナーも良く、誇らしく思った。惜しくも神大は、総合8位で本戦出場はならなかった。しかし、3組終了後は、通過ラインの5校につけ、見せ場は大いにつくったと思う。

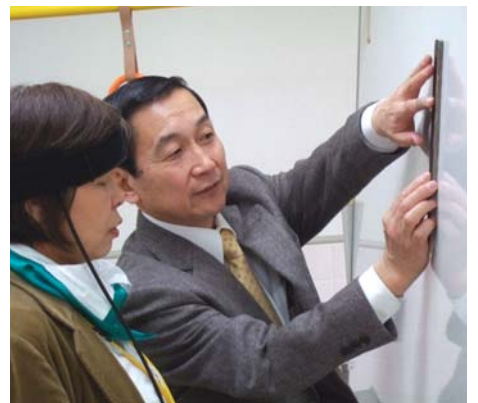
大きく崩れる事なく、最後まで戦う姿は、豊富な練習量の裏づけを感じ、確実に力をつけているなど、思った。指導体制の大幅な見直しから、3ヶ月余り。レース前の気迫、粘る走りにも、今後の伸びを予感させた。よく短期間に立て直したと思う。なによりも、選手の気合を肌で感じられる熱いレースだったのは、嬉しかった。

3ヶ月後の、10月16日は、いよいよ箱根駅伝予選会。宮陵会会員が、西立川に結集し、後輩の応援をせ、2年ぶりの箱根本戦出場を目指そう。ぜひとも、夢へのキップを手に入れて欲しいと、心から願う。

(58年賢 永田 晴彦)

ある晴れた通勤途中のバス停で見かけた盲目の新入生に目が止まった。バス停の前で立ちすくみ恐々とバスを待つ姿、健常者なら晴れやかで生き生きとした人生のスタートラインである。米蔵は思った：『何か役立つものを作つてあげよう』始めは何かの役に立つものといった漠然とした軽い気持ちで最初のきっかけだった。のちに米蔵は『オーデコ』の開発

動機は単純で、まさかこれを事業にするつもりは最初持っていませんでした。』と語った。その後趣味として週末毎に集まる物理同好会仲間で、盲人用補助装置の研究をして試作品を作った。その頃から近くの千葉盲学校の方々の協力を得て試作品を試しながら、徐々に機能と性能を追求した。製作を重ねる中、資金難・技術的な問題にもぶつかった。自分の知識と技能ではどうしても解決できない技術的問題を抱えていた時、ふと見た新聞記事に東京大学教授の研究記事を見つけ、直接コンタクトして協力を依頼し



全盲者による AuxDeco 体験

た。その基本技術「触覚神経に的確な電気刺激を生成する技術」のお陰で『オーデコ』を完成させた。途中開発資金の調達に詰まり何度か挫折しそうになったが、神大で培った『質実剛健の精神』と完成を待つて開発に協力して頂いた全盲の方達からの励ましを支えに今日まで乗切った。

そして最後に『オーデコ』の今後の目標を語った。日本だけでは約一〇万人と言われる全盲者の人口も、世界に目を向けると約四千万人の全盲者がいて年々増加しています。オーデコを世界中の一人でも多くの方に使用して頂き、健常者の生活レベルに近づける事が最終目標かも知れません。

今回の取材で、人の気持ちのわかる人が未来をつくり環境を変える、私たちの少しの優しさが世界を変える力になることを改めて認識させられた。【記事 平16年法 池田清隆】

支部だより

◆今後の支部総会(地域支部)開催予定

- 9月23日(木・祝) 静岡西部支部総会
- 10月2日(土) 北陸ブロック会
- 10月11日(月・祝) 富山支部総会
- 近畿ブロック会
- 奈良支部総会

お問い合わせは宮陵会事務局まで

電話 045-481-5661

FAX 045-413-0791 (内2451)

お詫びと訂正

会誌「宮陵」No.59「神大スポーツ・文化振興会」賛助者芳名に誤りがありました。深くお詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。

- (正) 軽音楽部 大木博人(昭和41電)
- (誤) 軽音楽部 大下博人(昭和41電)